



令和2年度中学部研修「交流及び共同学習とは」

富秋中学校との交流及び共同学習では、改めて交流及び共同学習の生徒のねらいを両校で練り直し、両校教員で協働して授業を作り上げることの重要性を確認しました。

両校の生徒のねらいや交流及び共同学習（英語かるた）をおこなった際の、富秋中学校の生徒の感想の一部を紹介します。

和泉支援の生徒のねらい

他の学校の生徒と上手に話せた。

友だちができてうれしい。

地域の学校で勉強したいな。

英語の勉強に自信がもてた。

- ①地域の学校の様子を知り、共に学ぶ楽しさを味わう
- ②様々な人と上手に関わっていく方法を学ぶ

富秋中の生徒のねらい

障がいがある生徒とも仲良くできた。

友だちができてうれしい。

協力してゲームができてよかった。

英語の勉強もつとがんばろう。

- ①適切な障がい観の育成
- ②様々な人と上手に関わっていく方法を学ぶ

交流後の生徒の感想（富秋中）



すごくいい行事だと思います！みんなとは魂が同じだと思いました。次の交流も楽しみにしています！

分からなかった単語もあったけど、今日覚えられたからよかった。楽しかったし、勉強もできていい思い出。



障がいがあるから「大丈夫かな」って思ってたけど、同級生としてしゃべることができて、思ってたよりおもしろかった！

障がい理解学習についての出前授業をおこなっています！

交流及び共同学習では、障がいのある子どももいない子どもも、意欲的に活動に取り組み、共に活動を楽しむことで、最初は不安だった生徒も徐々に慣れて、自然と子ども同士の触れ合いが生まれていきます。

はじめはどう接してよいか分からなくても、相手を「知る」ことで仲良くなっていける、そのような場面をたくさん見てきました。『みんなと交流して、協力して学ぶことって楽しい！一人じゃできなかったこともできるようになった！』そんな経験をこれからも積み重ねてほしいと思います。

また、英語カルタの交流及び共同学習をおこなう前に、事前に本校職員が富秋中学校に赴き、障がい理解学習の出前授業をおこなっています。内容は下記の通りです。

障がい理解学習出前授業

【昨年度の内容】

①和泉支援学校の紹介

②関わり方について考えよう！

→障がい特性から起こりうる困った場面を教員が演じ、その動画を見て、和泉支援の生徒との関わり方について考え、意見を発表する



『心のバリアフリー』を育むことをめざして…

学校において交流及び共同学習を進めていくことは、近い将来社会を担う子どもたちの『心のバリアフリー』を育むだけでなく、子どもたちを通してその保護者や活動に関わる関係者の障がい者に対する理解を促進し、ひいては社会全体の意識を変えることにつながるため、これからも交流及び共同学習をおこなっていきたいと思います。